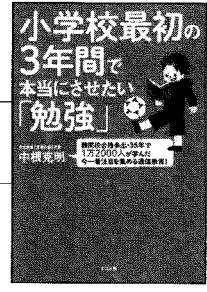
ブック

小学校最初の3年間で本当にさせたい「勉強」

中根克明　著

1512円　すばる舎

☎03-3981-8651



本書は、小学校の最初の3年間はあらゆることを模倣によって吸収し、その後の小・中・高の学校生活の基本となるレールを引く時期であり、この時に最優先にすべきことは「自由に遊ぶこと」と述べている。そして、子ども達は「遊びの中で技能を身につけ、その技能によってさらに遊びが広がる。遊びのおもしろさと学問のおもしろさは、同じ」であることを様々な事例（日常的な遊びやプログラミング等）から示している。「小学校最初の3年間で本当にさせたい〝勉強〟とは？」の問いには、著者は「読書こそ本当にさせたい〝勉強〟です。」と主張している。

国語力は学力の基礎であり、学校では日本語を読み、理解することが勉強の基本である。高学年の学習内容で「考える要素が増えてくると、読む力のある子とない子の差が次第に表れてくる。」とりわけ、「読む力」との関係が特に強い教科が「理科と社会」であるとし、「お昼休みに歴史の教科書を本代わりに読んでいて、定期テストでひとりだけ満点をとったこと。」等、著者の体験を通して語っている。さらに、4年生以降の考えることが中心になる勉強では、「読書によって豊富な語彙を身につけた子の方が、考える勉強が得意である」とし、大学入試の勉強でも読書による本物の国語力が育っていれば、問題の解き方の方法を知るだけで成績向上につながることも実証している。

そして、小学校3年生までに読む本として、著者お勧めの「絵本29冊」「児童書29冊」「『説明文』の本24冊」「図鑑1冊」が紹介文とともに書かれている。終章の「本当に地力のある子に育てていくために」では、子育ての大切なエッセンスが一杯詰まっている。

（愛知教育大学教授・高橋美由紀）